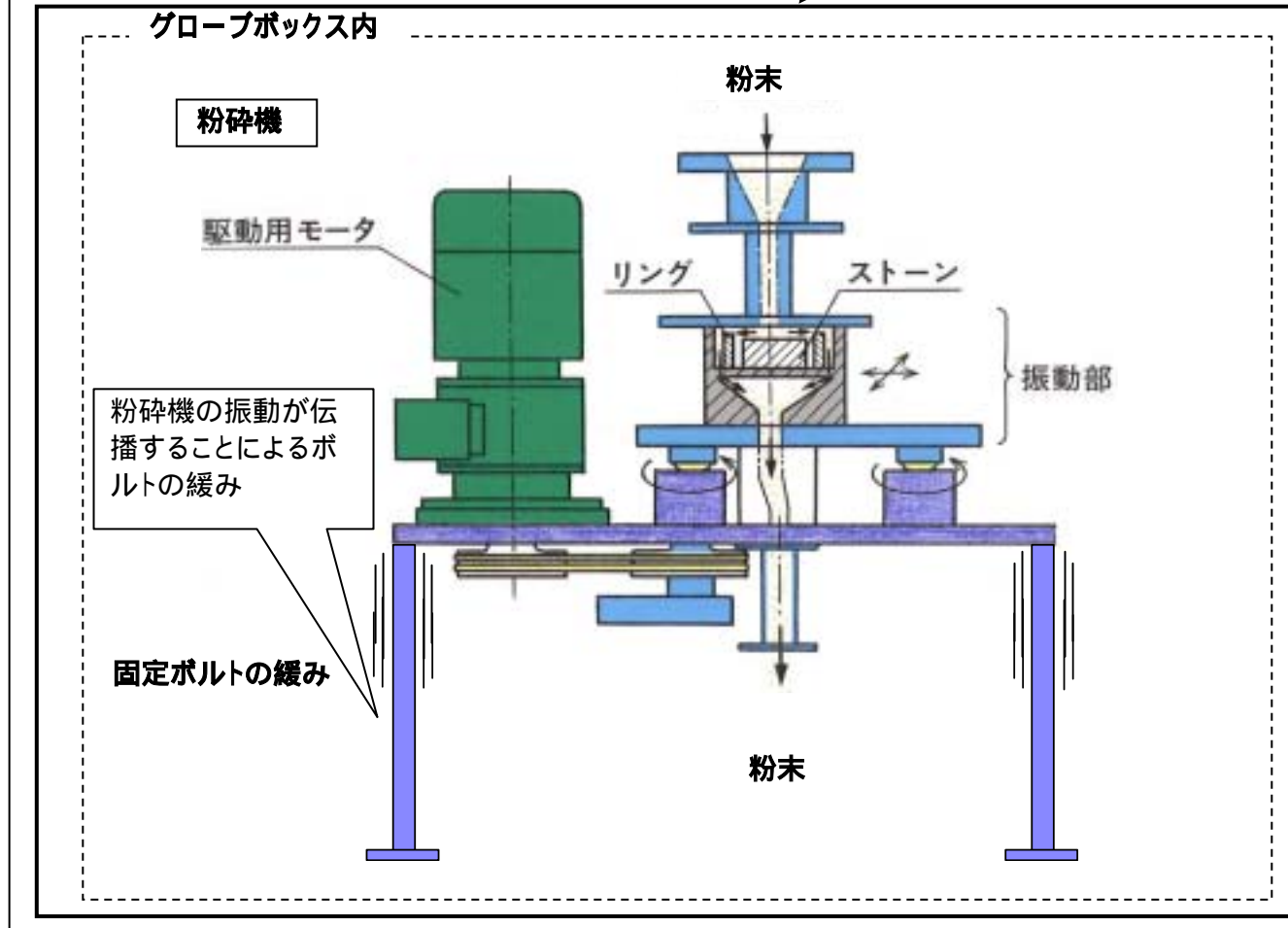
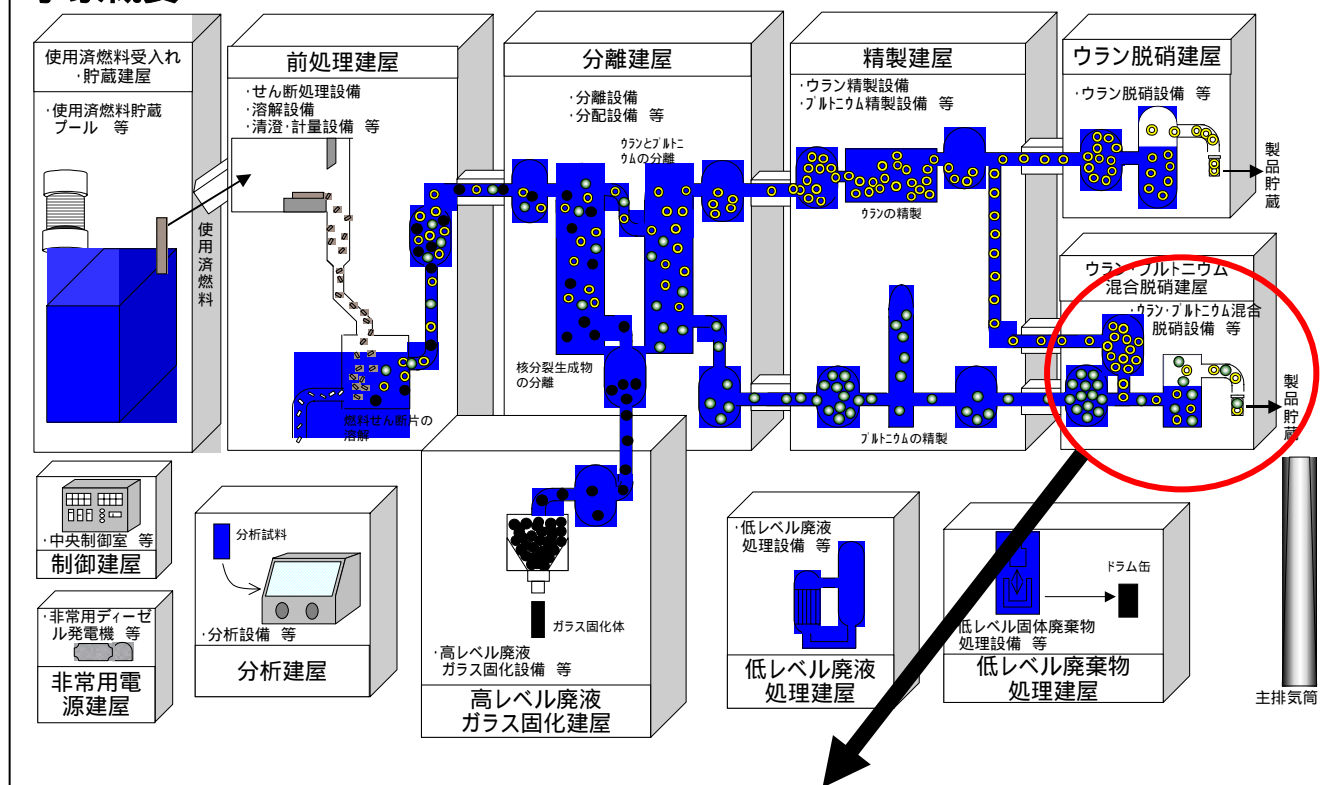


再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応 (No. 3 - 45)

件名	粉砕機が設置されたグローブボックス内における固定ボルトの緩み
事象の概要	<p>(1) 発生場所: 機器 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋: 粉砕機 (粉体系)</p> <p>(2) 発生の状況 粉体系の運転中</p> <p>(3) 概要 グローブボックス内に設置されている粉砕機の運転に伴い、粉砕機の振動が伝播することによるボルトの緩み</p> <p>* 他の建屋も含め同種の機器においても、同様な事象の発生が予想される。</p>
事象による影響	<p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋換気設備が稼働しているグローブボックス内でのトラブル及び復旧作業なので放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 グローブボックス内の機器は、作業員がグローブボックスに取り付けられているグローブを介し直接操作を行うため、ボルトの緩みなどは通常の操作・点検によって確認することが可能である。また、ボルトに異常が見つかった場合は増締めを行うことで、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 ボルトの増締め作業は、放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 他工程への影響は生じない。 通常の操作、点検において、ボルトの増し締めを行うため、他工程への影響は生じない。</p>
対応の概要	<p>(1) グローブボックス内の機器を固定するボルトに緩みが生じている場合は、ボルトを適切に締め付け、運転を継続する。</p> <p>(2) 上記ボルトの締め付けだけでは、復旧できない場合、原因を調査し、ボルトの交換等の復旧を行う。</p>

事象概要



公表区分	毎月集約して月1回公表(ホームページへ掲載)	
対応区分	(a) 運転継続しながら復旧	国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 (レベル2以下は工場外への影響はない)
	(b) 運転系統を切り替えて復旧	
	(c) 当該機器を停止して復旧	
	(d) 当該設備を停止して復旧	
	(e) 影響範囲の設備を停止	
		0以下 1 2 3 4 5 6 7 放射線物質の外部防出 工場外への影響 放射線物質による汚染、被ばく等 工場内への影響 運転制限範囲からの逸脱等 多重防護の劣化